

# 久留米広域連携中枢都市圏 平成30年度 第1回ビジョン懇談会 全体会 議事録

(1) 日 時：平成30年6月29日（金） 11：00～12：10

(2) 場 所：久留米商工会館 5階 大ホール

(3) 出 席：＜ビジョン懇談会委員＞

新井真実委員、黒沼清寿委員、穴見英三委員、實藤俊彦委員、上野秀幸委員、  
平田敬一郎委員、森山有希子委員、石橋広通委員、米倉久喜委員、  
藤田豪太郎委員、鯉谷彰委員、松田裕次委員、神代眞澄委員（代理）、  
吉岡マサヨ委員、猿渡知子委員、船津將義委員、山田香代子委員、中山克彦委員、  
高木 亜希子委員、大浦克司委員、有馬彰博委員

＜事務局＞

吉田秀一広域行政・シティプロモーション担当部長、

（広域行政推進課） 土居美佳課長、山下泰利主査、竹下佳奈主任主事

＜ワーキンググループ職員＞

※ワーキンググループは以下WGと表記

(4) 欠 席：＜ビジョン懇談会委員＞

世利洋介委員、原文雄委員、緒方伸州委員、大峯徳之委員、古賀裕俊委員、  
島由親委員、亀崎元治委員、浦里果委員

(5) 次第及び議事：

〔○…委員質問・意見 ●…事務局等回答〕

<b>1. 開会</b>
<b>2. 委員紹介</b>
<b>3. 規約の改正</b>
<b>4. 座長・副座長・分科会会長の選任</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 座長を世利委員、副座長を新井委員とする事務局案を提案し、了承された。</li> <li>・ 「経済成長のけん引分科会」会長に世利座長、「都市機能・生活関連機能サービス分科会会長に新井副座長を指名、了承された。</li> <li>・ 当日、交通機関のトラブルで世利委員は欠席となったため、副座長の新井委員が座長を務めた。</li> </ul>
<b>5. 議事</b>
<b>(1) 久留米広域連携中枢都市圏 平成29年度事業実績・決算及び平成30年度事業計画・予算</b>
<b>〔事業実績・決算および事業計画・予算について説明〕</b>
<p>○福岡久留米館について、フェイスブックのいいねの数が、“ぐんまちゃん”と比較すると、久留米館が360ちょっと、“ぐんまちゃん”が4400、距離の近さもあると思うが、このアンテナショップが福岡出身の方にどれだけ認知されているか、インスタになるとハッシュタグが152件しかついていない。情報発信の拠点としてもまだまだ不十分だと思われる。イベントの実施回数等もこのままでいいのか、事業実績の方には、売上げ実績も記載できるはず、その方が事業成果としても見やすい。</p> <p>●情報発信の強化が課題と認識している。SNSの効果は大変重要視されているもの。強化できるような取組みを実施していきたい。売上げの部分は、年度末までで、2,900万円ほどである。この売上げについても、今後努力していきたい。</p>

- アンテナショップについて、情報発信も必要だが、情報を吸収することも大事だと思う。今後の活用についてどのように考えているか？
- 情報受信も大事だと認識している。地域の業者の商品をどう磨き上げていくか、首都圏のニーズ等も吸収しながら、圏域の魅力を高めていくことが重要だと考えている。30年度についても、そういった商品の磨き上げにも取り組んでいきたい。
- ビジョン懇談会は年に何回開催か？事業費の内訳については、構成市町から集めて実施しているものか？交通マップは東京に持っていても通用しない。久留米に呼びこもうというのが分からない。このマップの意味合いが分からないが、目的は？
- ビジョン懇談会は、年2回を予定している。1回は、本日開催している全体会、秋頃にもう1回、分科会を開催させていただく予定である。事業費については、すべて各市町分も含めた事業費である。それぞれの市町で行っている事業、久留米市が実施して各市町から負担金をいただいているものを合算している。
- マップについては、圏域の方が、公共交通を有効に利用できるようにまとめて作成したものである。観光の要素も入れてはいるが、公共交通の有効利用を目的に作成したものなので、久留米市でいうと、バスセンターやJRや市役所、総合支所、市民センター、各校区センターに設置をしている。
- 久留米館について。特産品の販路拡大だが、久留米館での売上げが目標なのか、そこでのPR、地元産品が売れるような仕組みづくりが目的なのか、お聞きしたい。併せて、東京では、お金はかかるかと思うが、バイヤーとのマッチングや、メディア向けの情報発信を行うなど、予算を抑えた情報発信が必要だと思うが。
- 販路拡大については、成果としては、地元の事業者がアンテナショップを使って都内での販売が可能になったことが上げられ、これを契機に、関東の方で商品を認知していただくという取組を考えている。メディアについては効果が大きいと考えている。メディアに取り上げてもらうには、お金もかかる。商品の磨き上げによって、目を引くような商品づくりが必要だと考えている。

## (2) 成果指標について

### 〔成果指標について説明〕

- アンテナショップにおいて移住促進イベントの実施と福岡都市圏でのイベント開催とあるが、東京都市部において、久留米は知られていると思うが、その他の市町については、知られていない。東京都市圏で移住促進イベントをやって、どれだけの事業成果があるのかと思う。実際は、福岡勤めの方のお住まいがこちらになるほうが、現実的だと思う。同じ事業費をかけるのであれば、ウェイトがどうなっているのか、教えてほしい。Iターン、Jターンより、Uターンを狙った方がいい。全国で移住者を取りあう形になっていると思う。
- 首都圏と福岡都市圏、2つのターゲットエリアを定めて取り組んでいる。昨年度はアンテナショップの活用という視点があったので、アンテナショップにおいて移住促進のためのトークイベントを行った。地域おこし協力隊の視点から地域の魅力をお話していただく企画で実施した。確かに首都圏での認知度が低いのは、おっしゃるとおりである。そういう意味でも、今年度は、より具体的な移住促進につなげたいということで、福岡都市圏で住宅購入者に対して、情報発信をできないかと考えている。住宅展示場での圏域連携のイベントを考えている。予算配分については、具体的な移住につなげていくという点では、福岡都市圏の方が効果的だと思うが、東京でイベントをうつとなると、旅費の関係で、首都圏の方が、高くなっているというのが実情である。

○地域産業育成の事業について、創業に関する相談件数が、27年度基準109件、目標を300件と定めている。どのような相談があったのか。また、創業された方は、どのような業種で、久留米や4市3町でどのように創業されているのかわからない。我々は金融機関として創業ロケットにかかわっているが、どのような事業をされているのか等、数値を示してほしい。

●実際にどのような業種の方が創業されたかは、把握は難しいところであるが、久留米市の場合は、久留米市と日本政策金融公庫久留米支店とで久留米で創業された方の業種の情報を持っている。業態としては、全体93件のうち、23件が飲食以外のサービス業、21件が飲食業、18件が建設不動産業、医療福祉が9件となっており、全体の25%は美容室、23%は飲食業となっている。福岡県の事業でよろず相談を受けていただいており、その結果、いろんな業種の相談を幅広く受ける事ができている思っている。地域ごとに業種の特徴があるため、その特色に応じた支援をこれからも行っていく。

### **(3) その他**

#### **【分科会の日程について】**

質疑なし

#### **6. 閉会**

●皆様からいただいたご意見については、今後の事業推進に活かしていきたいと思っている。本日は、9名の委員がご欠席だったが、欠席された委員については、個別にお話を伺うこととする。また、本日もご参加いただいた委員の皆様についても、議論の時間が不十分だったと感じている。次は分科会ということで、さらに分野を絞って論議をしていただく場面があるが、その前に新任の委員やご発言いただいている方については、ご連絡させていただき、個別に意見交換させていただきたいと思っている。いただいたご意見については、委員の皆様にも報告したいと思う。

これで本日の懇談会は終了する。